

2021年4月吉日

運輸総合研究所

研究報告会 2021年夏（第49回）

ご案内

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

運輸総合研究所におきましては、「研究報告会 2021年夏（第49回）」をオンライン配信および会場参加にて開催することとなりました。

つきましては、ご関心をお持ちの皆様におかれましては、ご参加を賜りますようお願い申し上げます。

ご参加にあたりましては、大変恐縮ですが、申込み専用URLからお申込み頂きますようお願い申し上げます。

敬具

記

日 時：2021年6月2日（水）13：00～17：30（12：30開場）

会 場：オンライン配信（Zoomウェビナー）および

会場参加（ベルサール御成門タワー3F、80名を予定）

※会場参加につきましては、混雑を避けるため人数が限定されますので、

ご希望に添えないこともございます。

費 用：無料

プログラム：今回からプログラムを刷新し、まず当研究所の研究アドバイザーをお願いしている加藤浩徳東京大学大学院工学系研究科教授より研究者の立場から基調講演を頂きます。また、研究員からのそれぞれの発表にコメンテーターを設け、報告の概要と意義についての解説や報告者への質問を行うことにより議論の深度化を図ることとしています。なお、各コメンテーターについて、現在調整中となっています。決まり次第HPに掲載します。（詳細別紙参照）

お申込み：下記のURLよりお申し込みください。

<https://krs.bz/jterc/m/sympo49>

（申込期限：2021年5月28日（金）まで）

※お申し込み頂いた方には、6月1日（火）に視聴用URLをご送付いたします。



運輸総合研究所 研究報告会 2021年夏(第49回)

プログラム



- 日 時：2021年6月2日（水）13:00～17:30（12:30開場）
 ○会 場：オンライン配信（Zoomウェビナー）およびベルサール御成門タワー3F
 ○費 用：無料
 ○その他：会場内での撮影・録音は禁止させていただきます。

開会挨拶	宿利 正史	運輸総合研究所会長	13:00-13:05	(05)
来賓挨拶	藤井 直樹	国土交通省国土交通審議官	13:05-13:10	(05)
活動報告	「アセアン・インド地域事務所の開設について」 奥田 哲也	運輸総合研究所専務理事	13:10-13:15	(05)
基調講演	「我が国の交通運輸システムは国際社会 にどう貢献できるのか」（仮） 加藤 浩徳	東京大学大学院工学系研究科教授、研究アドバイザー	13:15-13:55	(40)
報告概要	山内 弘隆	運輸総合研究所所長	13:55-14:05	(10)
報 告				
(1)	「ASEAN諸国における土地制度の現状と 都市鉄道整備が沿線の地価に及ぼす影響」		14:05-14:40	(35)
	発 表 武藤 雅威	主任研究員		
	コメンテーター 日比野直彦	政策研究大学院大学教授		
(2)	「空港使用料が航空会社と環境に与える影響」		14:40-15:15	(35)
	発 表 田邊 勝巳	慶応義塾大学商学部教授、客員研究員		
	コメンテーター 藤村 修一	全日本空輸株式会社常勤顧問、客員研究員		
	休 憩		15:15-15:30	(15)
報 告				
(3)	「定期乗車券の保有が鉄道乗車行動に与える影響と 今後の定額制運賃のあり方に関する研究」		15:30-16:05	(35)
	発 表 小林 渉	研究員		
	コメンテーター*			
(4)	「新型コロナウイルス感染症が出張需要に及ぼす 影響と出張の価値に関する研究」		16:05-16:40	(35)
	発 表 安達 弘展	研究員		
	コメンテーター*			
(5)	「リモートワークが交通行動と居住地選択に 与える影響に関する研究」		16:40-17:15	(35)
	発 表 安部 遼祐	研究員		
	コメンテーター 谷口 守	筑波大学大学院システム情報系社会工学域教授		
閉会挨拶	佐藤 善信	運輸総合研究所理事長	17:15-17:20	(05)

司会

*コメンテーターにつきましては、後日、HPに掲載いたします。

【基調貢献】

「我が国の交通運輸システムは国際社会にどう貢献できるのか」(仮)

加藤 浩徳 東京大学大学院工学系研究科教授、研究アドバイザー

我が国は、長年にわたるインフラ投資と不断のサービス改善の努力の結果、高度な交通運輸システムを構築してきた。そして、そこで得られた知見や経験は、政府開発援助や企業の海外展開を通じて多くの国々の開発に貢献してきた。しかし、近年のインフラシステム海外展開では、ライバル国との競争等で本邦企業は相当苦勞している。本講演では、我が国の交通運輸分野の国際競争力向上と国際社会への貢献の意義を改めて問い直したい。

【報 告】

(1) 「ASEAN諸国における土地制度の現状と都市鉄道整備が沿線の地価に及ぼす影響」

武藤 雅威 主任研究員

バンコクやジャカルタなどのASEAN諸国の大都市圏では都市鉄道整備が進捗しつつあるが、施設建設段階での財源確保が課題となっている。その確保に向けて、固定資産税の徴収をはじめ、受益者負担金、容積率緩和などの開発利益還元策を講じるには、税制面を含めた土地制度や都市計画が整備されている必要がある。各国の大都市におけるそれらの現状について述べるとともに、還元策展開の可能性について考察する。また、都市鉄道整備が沿線の地価に及ぼす影響について、文献レビューと分析結果から考察する。

(2) 「空港使用料が航空会社と環境に与える影響」

田邊 勝巳 慶応義塾大学商学部教授、客員研究員

空港は国内外の航空路を繋ぐ結節点であり、旅客と物流の両面において、極めて重要な交通インフラである。半面、CO2の排出や、地域に騒音や環境汚染物質を与えるNIMBY施設でもある。様々な対策が取られているが、昨今の世界的な傾向として、環境に配慮した空港使用料の導入がある。本研究では空港の料金体系が航空会社と環境面に与える影響について分析を行い、持続可能な空港のあり方について示唆を得る。

(3) 「定期乗車券の保有が鉄道乗車行動に与える影響と今後の定額制運賃のあり方に関する研究」

小林 渉 研究員

コロナ禍を経て、企業は通勤手当の支給方法を定期乗車券から実費精算へと見直し始めている。本研究では、定期券保有が鉄道乗車行動を増加させるという仮説を立て、鉄道利用者のアクティビティパターンや行動範囲に対して定期乗車券保有の有無が与える影響を実証的に検証する。それを踏まえ、コロナ禍による物理的な出社回数が趨勢的に減少する状況を念頭に、鉄道利用を促進するための今後の定額制運賃制度のあり方について考察する。

(4) 「新型コロナウイルス感染症が出張需要に及ぼす影響と出張の価値に関する研究」

安達 弘展 研究員

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機に、移動の自粛や働き方の変容が進み、企業の出張が大幅に減少し、鉄道や航空等の幹線移動の需要は著しく低迷している。本報告では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が企業の国内出張行動に与えた影響について、企業ヒアリングの結果を基に紹介する。

(5) 「リモートワークが交通行動と居住地選択に与える影響に関する研究」

安部 遼祐 研究員

コロナ禍で進展したリモートワーク(在宅勤務など)は、個人・世帯の日々の交通行動のみならず、住まい方にも変化をもたらす可能性がある。一方、リモートワークが住まいの郊外や圏域周辺・地方への移転を促すかについては、十分に明らかになっていない問題である。本報告では、最新の調査の結果に基づき、リモートワークが交通行動と居住地選択に与える影響を示し、今後の都市・地域交通に関する示唆をまとめる。